



第9回日本レーザー医学会総会

会長：近畿大学・電気工学科 久保宇市 教授

テーマは定められておらず、工学系が初めて大会を主宰することになったので、工学関係者にレーザー医学への理解を深めて頂くことを主眼としていた。「レーザー応用の本命は医学応用とエネルギー開発にある」と論文抄録集「御挨拶」に明記されていた。特別講演は「レーザー医学の将来」を渥美和彦先生に、「レーザー工学の将来」を山中千代衛先生に御講演頂いた。招待講演は「フリーエレクトロンレーザー」を今崎一夫先生に、「X線レーザー」を加藤義章先生に解説して頂いた。シンポジウム(35件)は心臓血管外科(10件)、低出力レーザー(6件)、光化学治療(10件)、医用レーザー装置(9件)の4テーマであった。一般講演(56件)は歯科・口腔外科(14件)、外科・泌尿器科(6件)、YAGレーザー応用(16件)、光化学治療(20件)であった。総計95件であった。これらは大会論文集として、日本レーザー医学会誌Vol.9、No.3(1988)にまとめられている。参加人数は449名であった。出品企業18社、広告9社、賛助会社26社であった。第2回国際低出力レーザーシンポジウム(大会長:渥美和彦先生)が同会場で11月27日に開催された。光線力学治療研究会の打合せも行われた。

近畿大学 橋新裕一現教授
よりの文章 (原文のまま)